

編集後記

2018年は、創価教育研究のネットワークが一段と国際的な広がりをみせた1年だった。その中で創価大学及び本研究所も、各国の研究者と交流を深め、研究成果を発信することができた。まず、2月にはフィリピンのイースト大学で第1回「池田思想シンポジウム」が開催され、勘坂純市所長が研究発表を行った。9月には、創立者の日中国交正常化提言50周年、日中平和友好条約締結40周年を記念する「日中新時代フォーラム」が創価大学で開催された。翌月には、第10回目となる「池田大作思想国際学術シンポジウム」が中国の復旦大学で行われ、本年度より本研究所教授に就任した叢暁波所員が「時代の精神状況から見た池田大作思想の三つの境界」と題する研究発表を行っている。これらの研究と並行して、2021年の創価大学創立50周年を前に、本学の歩みを振り返り検証する『創価大学50年の歴史』（仮題）編纂事業も本格化しつつある。

『創価教育』第12号には、このような研究成果の一端を収録するとともに、法学、国際関係論、地理学など、多様な学問的基盤に立脚して創価教育の思想と展開を扱った論考を掲載することができた。

本紀要では、毎年、大学の主要な式典における来賓の祝辞を特別講演として掲載している。本号には、バージニア工科大学教授のジム・ガリソン氏による卒業式での祝辞、デリー大学セント・ステイーブンズ・カレッジ学長のジョン・バルギース氏による入学式での祝辞、そして中日友好協会副会長の許金平氏による創大祭・白鳥祭記念「創価栄光の集い」での記念講演の3本を収録した。

論文としては、中山雅司所員による「『世界人権宣言』70年—池田・アタイデ対談を読む—」と、坂口貴弘所員による「アーカイブズにおける秘密情報保護と資料公開：欧州のデータ保護制度を手がかりに」を掲載した。それぞれ、人権概念の系譜と牧口・戸田・池田思想の関係、歴史資料の保存・公開と個人情報保護法制の関係を考察した論考である。

次に、2018年に行われた創価教育に関する講演の中から3本を収録した。張梅氏（中華人民共和国駐日本国大使館 広報部参事官）の「中日友好と青年の使命」は、2018年7月16日に本研究所が開催した講演会の記録である。本多正紀氏（戸田記念国際平和研究所常務理事）による「草創の創価大学を語る—第3回入学式と滝山寮の日々—」も、2018年10月29日開催の本研究所講演会の記録である。さらに、前述した海外での創価教育関連シンポジウムでの研究発表のうち1本を掲載した。「To Fight for, Cooperate with and Respect Ordinary People: Why Did Daisaku Ikeda Found Soka University and Esteem José Rizal?」は、フィリピンのイースト大学で開催された「池田思想シンポジウム」での勘坂所長の講演である（2018年2月24日）。

中国における「池田思想」研究の動向についての高橋強教授の報告は、本号で10回目を迎えた。2018年度に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。また資料紹介として、第10号に引き続き、斎藤正

二氏（創価大学名誉教授）の遺稿である『『人生地理学』補注』補遺（6回目）を収録することができた。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2019年3月（T.S.）